

# 新井満・いのちの交響楽

開催日 **2016年10月6日(木)** 会場 **サンポートホール高松**

- 1 講演と歌唱「千の風に吹かれながら、幸福を想う」新井満
- 2 講演「いまを生きる力」五木寛之
- 3 対談と歌唱 五木寛之×新井満
- 4 フィナーレ合唱「大河の一滴」「千の風になって」  
香川二期会合唱団+新井満



「歌う作家」ベスト5は  
三島・野坂・戸川・石原そして新井満！

## 長寿社会をしなやかに生きてゆくためには…

### 瀬戸内国際芸術祭の彩る香川県高松市で開催されました。

#### 新井氏講演

#### 幸福の条件とは

芥川賞作家の新井さんが作曲した「千の風になって」は、天上の死者が私たち生者を慰め、癒す歌。この大ヒット曲、そもそもは若くして妻に先立たれ悲嘆する友人家族を力づけるために作り、贈ったものでした。当時幼子だった娘さんも、この歌を励みにして成長し、今では二児の母です。母から娘へ、その子へと繋がる命のバトンリレーを見守ってきた新井さん。命は繰り返して再生し、滅びないものと言い、自らこの歌を歌います。

「幸福とはなんでしょうか？」という問い掛けから講演は始まります。

- 1) 朝、健康に目覚めること
- 2) 昼、とりあえず食べるものがあること
- 3) 夜、安眠できること

これが新井さんの奥様が常々おっしゃる幸福の条件。簡単なようで実は意外と難しいんです、と新井さん。奥様の幼少よりの夢であった羊飼いの暮らしを北海道大沼湖畔の森で実現した新井夫妻。子羊の誕生に一喜一憂し、動物たちを世話する日々を送っていますが、「千の風になって」は、この大自然の中で誕生したのです。

奥様のいう幸福の条件に、夫の新井さんは「心に響くパートナーを持つこと」を加えます。それは共に生き、共に在る“人生の相棒”であり、配偶者や恋人に限らず、気の置けない友人、大切なペットや植物などもパートナー。そして、新井さんは、自作の「この街で」を歌唱。仲の良いパートナーを持つ幸せを歌い上げて締め括りました。

この街で 生まれ この街で 育ち  
この街で 出会いました あなたと  
この街で  
この街で 恋し この街で 結ばれ  
この街で お母さんに になりました  
この街で

(中略)

この街で いつか おばあちゃんに  
なりたい  
おじいちゃんに なったあなたと  
歩いて ゆきたい

#### 五木氏講演

#### 仏教に学ぶ心身の養生法

「繰り返しなされる同じ説法も、そのたび初耳のごとく感動して聴きなさい」…五木さ

んの講演は、浄土真宗中興の祖・蓮如の教えから始まりました。この言葉には、長寿社会のいまを生きるヒントがあると言います。

「皆さんの中に『おじいちゃんのお話はいつもいっしょね』とか『また繰り返しが始まった』なんて切り捨てんばかりにお年寄りを敬遠する方はいませんか？いやいや皆さんご自身が言われる立場かな？」との話に会場はどっと沸きました。

なんどでも「それでどうしたの？」「楽しかったのね」と相槌を打ち、記憶を呼び起こさせてあげましょう。記憶は一旦鮮明に蘇ると、どんどん湧き出していきます。これこそ、認知症予防や鬱病の治療にも用いられる「回想療法」です。誰もが老いゆき、やがて自分が聴いてもらう立場に。新井さんいう「良きパートナー」のように、聴いてくれる相手があるのは大変な幸せなのです。

次に五木さんは、仏陀の教える呼吸法「アーナパナサティ・スートラ」を紹介。アーナパナサティは吐く息・吸う息、スートラは経典。まず大きく息を吐き、ゆっくりと吸う。要するに「あぁ〜」と深いため息をつくことだと。五木さんは鬱に見舞われたとき、心底からのため息をつき、吐いた分だけ新鮮な空気をたっぷりと体内に取り込む。そして、独り記憶をひも解いて、忘れることのできない、よい思い出を蘇らせます。そうするうちに、ふっと生気が満ちてきて不調から脱するのだと。

#### 五木氏×新井氏対談

#### 「青春の門」執筆再開を巡り白熱

御年84歳の五木さんは、休筆中の連載小説「青春の門」の執筆を来年、23年ぶりに再開すると発表されたばかり。このことが改めて紹介されると満場の拍手。旧ソ連にわたった主人公・信介の今後の展開を問う新井さんに、「物語の結末だけは、こんな風に決まってるんですけど」と明かす五木さん。「新しいテーマ曲を一緒に作りませんか？」と新井さん。すでに昨秋、お二人による住友生命健康財団創立30周年記念歌「きのうきょう あす」が発表されています。直木賞作家と芥川賞作家による豪華な人生の応援歌。新井さんが朗読、歌唱し、万来の拍手を浴びました。



帽子を被ると歌手に変身



昔、「青春の門」テーマソングコンクールに  
新井さん応募してくれたんだよね？



香川二期会合唱団と歌う「千の風になって」